

仙台司教区 教区事務所だより

十月の司教様の日程

(九月二十日現在)

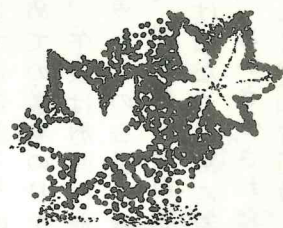
- 三 日 堅信式(平教会)
- 四 日 日 ベトレヘム会月例会出席
- 十一日 助祭叙階式(元寺小路)
- 十七日 マリア祭(一関教会)
- 二十四日 松木町教会訪問
- 三十一日 仙塩地区信徒大会

「大湊」のその後

焼失した大湊教会再建のために、再建委員会(既報)はいろいろ準備していたが、去る八月入札が行なわれ、地元野村組が二千五拾万円で工事を請け負うことになり、この程、契約書を取り交わされた。九月中旬着工、十一月末には竣工の予定である。

司教座聖堂に

紋章が



(第 5 号)
昭和 51 年 10 月 1 日

九月九日、何気なく司教座聖堂に足を踏み入れた人は、中央司教座の上に、さんざんと輝く十字架の光にビックリしたにちがいない。

「事務所だより」第一号でお知らせしたが、紋章は、五月上旬、何者かに盗まれて、空いていたが、今度仙台在住の彫刻家・翁ひろ子氏の手によって成ったものである。

木の素材を源氏車に彫りこみ、斜めに貫く牧杖も厚さ五センチの板を彫り上げたもの。十字架の部分には箔で覆われ、窓から射しこむ光に映えて、キラキラと輝いている。

ちなみに、司教座聖堂の両側の壁に描かれている十字架の道行の壁画は、舟越保武氏の作で、昭和二十七年に今の聖堂が建てられた時、製作されたものである。

ミニ情報

◎ 八月二十九日、福島市花園町のユングレガシオン・ド・ノートルダム修道院で、二人のシスターが永久誓願を宣立した。

ミリアム安田礼子姉。昭和三十二年、福岡高宮教会で受洗。昭和四十二年入会。

ジャクリーヌ熱海紀子姉。昭和三十七年、福島県大町教会で受洗。昭和四十二年入会。

佐藤司教の二回目の永久誓願式であった。

◎ 九月一日(六日、東仙台司教館で、丸六日間の神学生の合宿が行なわれた。参加者は、今野東志男助祭(石巻、神学四年)と三人の教会奉仕者、首藤正義(米川、神学四年)、渡辺彰宏(郡山、神学四年)、笹気

直哉（西仙台、神学三年）の四名である。首藤、渡辺の両師は、来る十月十一日、元寺小寺教会で、助祭に叙階される予定である。

現在、仙台司教区の神学生数は右の四名のみで、今までの神学生在籍数としては最低を記録しており、彼らの後に続く神学生の養成の必要がさげばれている。

◎ 九月六日、神学生養成委員会が神学生合宿の最終日に司教館で行なわれた。委員会のメンバーは佐々木博師（西仙台）、深沢守三師（塩釜）佐藤守也師（元寺小路）、トラハン師（ケベック会）、シュマッヘル師（ベトレヘム会）、ロペス師（グアドルペ会）である。

来る十月十一日に叙階が予定されている助祭候補者二人と、来年度、神学校入学を希望している二人の志願者への面接が行なわれ、今後の神学生養成についても話し合われた。

◎ 九月十二日、第二回使徒職研修会の七回にわたる講座の第一回目が元寺小路教会信徒館で行なわれた。参加者は四十一名。この日の講師は吉田昌民師（教区事務所）「救い

の歴史」と題して約一時間の講義の後、三つのグループに別れて研究が深められた。第二回目は十月三日。講題は「創造と救い」。

講師は佐々木博師である。

◎ 九月十三日、十四日、花巻教会で、岩手県カテキスタの研修会が行なわれた。全員十名が出席し、佐藤司教様の「教区とカテキスタ」についての話をもとに話し合いがもたれカテキスタの役割の大切さについて認識を新たにした。午後からは、場所を改めて、同一県下に働きながらなかなか一堂に会する機会の少ない仲間同志の親睦を深める集いをもつことが出来た。

◎ 九月十五日、敬老の日、カトリック児童福祉会の経営になる暁星園では、九十三歳を最高に五十一名の老人が生活しているが、この日、同園開園後初めての敬老の日を迎えて午前は式典、午後は慰問の催しが行なわれ、各界からの心温まる祝い物が贈られた。理事長佐藤司教も出席。敬老の日だけでなく、常に老人を敬うようにと、あいさつされた。

◎ 九月十九日、仙台司教区女子修

心のもしび運動

チャリティー抽せん

一等 トヨタスターレット、四ドア

ハイ・デラックス

二等 香港への旅

三等 東芝ブラックストライプ一八

抽選 十二月十二日午後二時

会場 仙台市民会館地下ホール

一枚 二百円、一冊（七枚綴）千円

仙台YBU文化センター

仙台中央郵便局私書箱一一四

TEL 仙台六一一五三四一

道会連盟研修会が、仙台白百合学園で行なわれた。これからの修道女のあり方に焦点をしぼり、佐藤司教の「関係に生きる」（人格的交わり）霜山徳爾教授の、「修道女の心理的成熟」をテーマに研修が行なわれた。新潟から参加の二名を加え一四〇名の出席を得、盛会だった。

佐藤司教は、四時半の散会まで研修に参加された。

◎ 九月十九日、仙塩地区八教会合同スポーツ大会が、東仙台ラ・サールホーム・グラウンドで行なわれた。

仙塩地区教会代表者合同会議の主催になるもの。司祭、修道者、信徒ら三百名が参加した。教会対抗リレー、

親子おんぶ競走、夫婦三脚、六十歳以上によるスプリンレースや、幼児小学生、中学生の徒競歩など、老若男女全員が参加出来るプログラムが生まれ、秋晴れのもと、楽しい一日を過ごした。

今年の優勝チームは西仙台教会で、司教杯を獲得、惜しくも一点差で準優勝は塩釜教会の手におちた。

佐藤司教

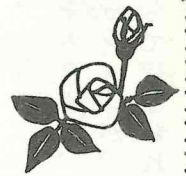
社会福祉法人理事長に就任

社会福祉法人カトリック児童福祉会は、宗教法入カトリック仙台司教区を母体として生まれ、現在五つの施設を営んでいる。金ヶ瀬保育園（園長 本間重治師）、米川保育園（園長 小林有方司教）、川渡保育園（園長 町会議員・岡田友治氏）、古川保育園（園長 渋谷貞雄師）、そして、特別養護老人ホーム暁星園（園長 川井啓師）がそれである。小林司教様の教区长職辞任に伴い、社会福祉法人理事長も佐藤司教様に引き継がれたが、九月に入って正式に届出を済ませ、発表されたもの。

◎カリタス・ジャパン……………

第二回

チャリティーパーザー



世界的組織をもつカトリックの災害福祉援助機関、カリタスの一翼を担うカリタス・ジャパンでは、第二回チャリティーパーザーを企画したが、その催しの一つとして、日本全十六教区には十二万枚の抽選券が配られた。仙台司教区には六百冊（六千枚）が配分されたが、この六百冊は、邦人司祭団、宣教修道会の教会信徒数によって比例分配され、各小教区の信徒の協力が呼びかけられている。教区司祭団 三、九六四人 二二〇冊 ケベック会 一、九〇九人 一一〇冊 ベトレヘム会 一、七〇三人 一〇〇冊 ドミニコ会 二、二八一人 一三〇冊 グアダルペ会 六〇一人 四〇冊 この基金は、緊急災害援助基金として集めるもので、目標額一千万円。昭和五十一年十月十七日、イグナチオ教会で開かれる。賞品には、電子レンジ、ポケットカメラ、自転車等が当てられている。第一回募金は、

昭和四十六年十月行なわれた。

援助活動の実績としては、昭和四十三年から五十一年にかけて、三億円が集められ、ペルー地震、ルーマニア洪水、東パキスタン・パングラデシユ：等々、南伊豆震災、小豆島水害、ベトナム難民救済など、緊急を要する救援活動に多大の効果をあげ、その対象は二十数か所に及んでいる。

ルフェーブル神父様

(ケベック宣教会)

カナダに引退

来日以来二七年、仙台教区のために働いて下さったルフェーブル神父様は、今年七十二歳。母国カナダに引退のため、九月十二日、日本に心を残して、羽田をお発ちになった。

同師の略歴

一九〇三年 モントリオールに生まれる。

一九二九年 司祭に叙階。

同年、直ちに満洲に赴任。同地で十八年間、宣教師として活躍した。

一九四七年 一時、カナダに帰国。

一九四九年 日本宣教のため再び出

国。四月二十九日、横浜に上陸した。同年十二月、浪打教会。一九五〇年、三本木教会（現十和田教会）。

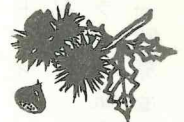
一九五一年、浜町教会（現本町教会）等で働いた。主として、青森を中心に布教活動を続け、焼失した浜町教会を復興し、又松ヶ丘保養園、藤聖母園、老人ホーム、レジオマリエ、フランシスコ第三会などで、指導力を発揮された。大きな足跡を残して下さった神父様に、教区一同心から感謝しつつ、出来たら、もう一度、神父様に、日本の、仙台教区の、そして青森の地を踏んで頂けるのを、心から希望している。

（本町教会広報部参照）

布教の日献金（十月十七日）

この日の献金は、信仰弘布会ローマ本部におくられ、全世界の布教のために使われます。昨年の仙台司教区の献金額は四二七〇〇円。信徒一人当たり平均三七円で、比率では全十六教区中第四位でした。今年の皆さまの奉献を期待します。

大湊市の宣教



仙台司教区内には、聖パウロと名乗る修道会が二つある。一つはシャルトルの聖パウロ会。これは、仙台司教区内では八十有余年の伝統を持つており、女子教育（白百合学園経営）への献身を通して、深い影響を人々の心に与えているが、もう一つは、戦後來日した聖パウロ女子修道会。通称出版聖パウロ会とも呼ばれ、マスメディアによって人々の心に福音を伝えようとする修道会である。

彼女らには「プロパガンダ」と称する一つの行いがある。良書を携えては一軒一軒家庭を訪問して、本を通して人々の心に訴えていく仕事である。時には、「ものみの塔」まがいの押し売りともみなされかねないが、押し売りとうけとられないところは、さすがシスターである。

七月五日から八月二十六日まで、大湊小教区の「プロパガンダ」が、五名のシスター方によって行なわれた。訪問世帯数、実に七千四百ノ

普通の人では、なかなか入って行けない自衛隊の中にまでも入って行った。その勇敢さに感心したのか、気押されたのか、自衛隊総監部ではカトリック出版物紹介の印刷物まで作り、隊員に回覧の便をはかってくれたとか。

シスター方によってまかれた種が枯れてしまわないように、何とか努力して育てたいと、大湊の信者方は感謝している。

（大湊教会「はまなす」参照）

十月はロザリオの月
イエズス、マリアの御生がいを
黙想しつつ、祈りましょう

ロザリオの祈りで、最も大切なことは、玄義の黙想です。各玄義の登場人物や場面を想像し、考え、キリストの福音のよろこびを味わうことです。私たち信者は、神の生命に生かされて、人々に、生かされたよろこびを伝えるために召されたもの。

黙想の練りかえしは、あなたに神の生命を味わわせてくれます。

.....

仙台司教区教区事務所だより第5号

昭和五十一年十月一日発行

発行所 仙台司教区事務所

〒980 仙台市本町一丁目2番12号

TEL 0222
22
7371